

「知ることの大切さ」

渋川市立渋川中学校 三年 六川 美梨亜

群馬県渋川市。ここは、私が生まれてから今までずっと暮らしている平和な町だ。平和というのには、訳がある。洪水もなければ土砂災害もない。津波なんて絶対に来ない。私が小さい頃は、災害なんて作り話か何かだと思って、一つも信じないほどだった。祖母はニュースで災害があった映像を目にすると「ばあちゃん、田舎はね・・・。」と昔あったことを話してくれる。私の祖母は栃木県の山奥の田舎で生まれ住んでいた。今住んでいる渋川ではありえない多種多様な体験をしたり、災害にあったりしたそう。地震だとか、初めて洪水を体験したのと、大叔父のこと。私は体験したことのない話ばかりで祖母の話に聞き入ってしまう。そんな中で最も印象強く心に残っているのは大叔父の話。

当時、大叔父は山で作業をしていた。その日はいつもと変わらない晴天の日だった。数人の仲間たちと「作業早く終わらないかな。」「終わったら少し休憩するか。」なんて、呑気に話をしていたそう。普段と変わらない日常。大叔父は黙々と作業をこなしていた。その日常を一変させることが起きた。それは地震によってがけが崩れ、山のてっぺんにあった大きな石が転がり落ちてきたという。ゴゴゴと大きな音を立て、落ちて来る石や土砂に仲間たちは「早く逃げろ。」「危険だ。」「と叫びながら逃げたそう。しかし、あつという間の出来事に大叔父は間に合わず、体を覆ってしまふほどの大きな石の下敷きになってしまったという。そして、この落石と土砂崩れにより大叔父を含む三人の命がなくなったという辛い話だ。話を聞き、想像しただけで怖い話だった。話すことが大好きな祖母なのに言葉を詰まらせ、この話を涙を目の中いっぱい溜めながら私に話してくれた。「他人事だと思わないで欲しい。体験しないことが一番いいけど、今こうして話しているときも災害の被害にあって大変な思いをしている人もたくさんいるの。目を背けず災害のことを知ろうとすることも大事だよ。」と言った。そして、祖母に言われた通りに土砂災害について調べてみることにした。土砂災害は大きくわけて「土石流・地すべり・がけ崩れ」の三つに分類することができる。「土石流」は、大雨などが原因で山や谷の土・石・砂などが崩れ、水とまじってどろどろになり、一気に流れ出てくる現象のこと。破壊力が大きく、速度も速いので、大きな被害をもたらす。「地すべり」は、ゆるい傾きの斜面が、雨や雪解け水が染みこんだ地下水によって、広い範囲にわたってすべり落ちていく現象のこと。「がけ崩れ」は、雨水ががけにたくさん染み込んだことや地震のゆれが原因で、急な斜面が突然崩れ落ちる現象のこと。祖母が話していたのは、おそらく「がけ崩れ」のことだろう。がけ崩れの画像も見てみると、よくニュースなどで見かける悲惨なものばかりだった。

土砂災害なんてほとんど関わることがないと思っていた私にとってショックがすごく大きかった。土砂災害に限らず、災害が正確にいつくるかなんて誰にも予想できない。しかし、災害に対して何も対策できないわけではない。例えば、もし土砂災害が起きた時、家族が一緒の場所にいる時なら問題ないが、私が学校、母や父が仕事、祖母が家のように、家族がそれぞれが別々の場所にいたとしたら・・・。家族は無事かどうか、家族に会えるのはいつか、心配になるだろう。そうならないように、避難する場所を決めておくべきだ。私の家では、避難所に指定されている南小に集まるように決めている。あとは、自分の家が土砂災害警戒区域にあるかどうか調べてみる。これは、自分の家だけでなく、旅行などで訪れる場所も土砂災害警戒区域にあるか調べることも大切だと思う。また、避難時に必要な防災バックの用意も大切だ。食料などの消費期限は、物によるが、ほとんど五年くらいだそう。だから、何年かに一度、消費期限を確認して買い替えるべきだ。もし家に防災バックがないなら、今ではお店で手軽に防災グッズを手に入れることができるから、用意しておいた方がいいと思う。

「災害なんて起きないだろう。自分は大丈夫だろう」。なんて思って油断しているからこそ、もしものことを考えておくべきだ。私に今できることは、災害に備えること。そして、「今」を楽しむ、私の大切な命に感謝することだ。